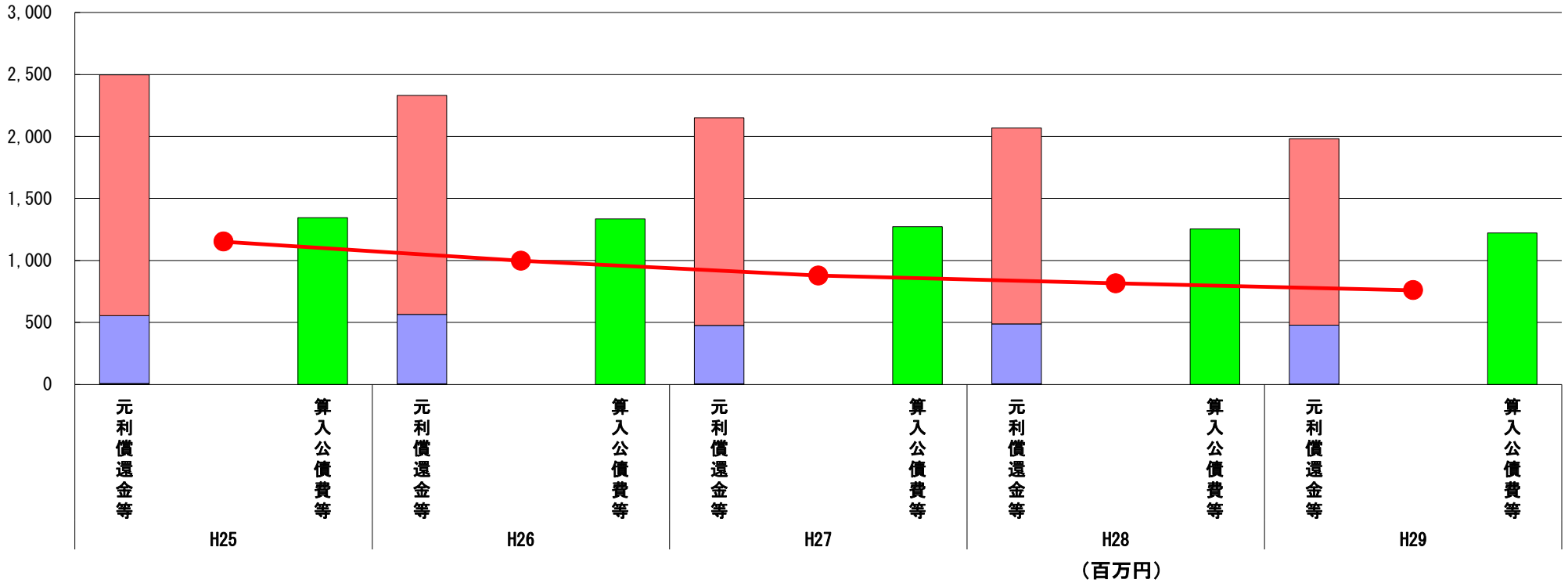


(9) 実質公債費比率（分子）の構造（市町村）

平成29年度

北海道白老町

(百万円)



分子の構造		年度				
		H25	H26	H27	H28	H29
元利償還金等 (A)	元利償還金	1,942	1,767	1,674	1,580	1,504
	減債基金積立不足算定額	-	-	-	-	-
	満期一括償還地方債に係る年度割相当額	-	-	-	-	-
	公営企業債の元利償還金に対する繰入金	548	560	471	484	475
	組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等	-	-	-	-	-
	債務負担行為に基づく支出額	6	4	4	4	2
	一時借入金の利子	1	1	1	1	1
算入公債費等 (B)	算入公債費等	1,345	1,335	1,272	1,254	1,222
(A) - (B)	実質公債費比率の分子	1,152	997	878	815	760

分析欄

実質公債費比率については、地方港湾白老港建設事業をはじめ、過去からの大型事業の実施に伴い、高い水準で推移してきた。特に、平成23年度～平成25年度決算においては、第三セクター等改革推進債の元利償還金の増加などを背景として、一層の上昇を招いた。しかし、同償還金について償還期間の繰延べ（10年→20年）を行なったことや、全体の元利償還金等の純減により、平成26年度からは明らかな減少傾向に転じ、この傾向が続くものと捉えている。

今後も、計画的な町債発行に努め、早期に指標の改善を実現できるよう計画的な財政運営に努めたい。

※平成30年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。